

船舶事故調査報告書

平成30年1月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成29年8月14日 11時30分ごろ
発生場所	香川県土庄町家浦港東北東方沖 家浦港中央一文字防波堤西灯台から真方位059° 1.2海里付近 (概位 北緯34°30.1′ 東経134°04.8′)
事故の概要	プレジャーボート0 chan 3 は、漂流中、また、プレジャーボートロッキーⅢは、東進中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成29年9月5日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 0 chan 3、2.6トン 271-38396岡山、個人所有 B プレジャーボート ロッキーⅢ、5トン未満（長さ6.32m） 272-19386岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	船長A、一級小型・特殊・特定 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷後部外板に亀裂を伴う擦過傷 B 右舷前部外板に擦過傷
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東北東、風力 1、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 上げ潮の初期
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、釣りを行いながら漂流中、船長Aが、叫び声が聞こえたので、左舷後方を振り向いたところ、接近するB船に気付いたものの何もできず、B船と衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、船首部に知人2人を乗せ、釣り場を移動するため、約30km/hの対地速力で手動操舵により東進中、船長Bが、左舷方にいた3隻の船を見ていたところ、船首方で漂流中のA船に気付いて左舵を取ったが、A船と衝突した。
分析	A 船は、漂流中、船長Aが、釣りを行っていて周囲の見張りを行っていなかったことから、左舷後方から接近するB船に気付くのが遅れ、B船と衝突したものと考えられる。 B 船は、東進中、船長Bが、左舷方にいた3隻の船を見ていて前方の見張りを適切に行っていなかったことから、前路で漂流中のA船に気付くのが遅れ、A船と衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、A船が漂流中、B船が東進中、船長A及び船長Bが共に見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。

参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 漂泊中は、定期的に周囲を確認し、接近する他船を認めた際は、適切な時機に衝突を避ける措置を採ること。・ 航行中は、特定の方向を見続けることなく、常時適切な見張りを行うこと。
-----------	--